



校訓：至誠一貫 学校教育目標：自ら学び、自ら行動し、互いを認め合う生徒の育成

令和8年度西有田中学校だより

第5号 (2026.6.1)

文責：中尾 恵子

挑戦・仲間

徳永義昭様のキャリア教育講演会

「夢」をつかまえる力

－ のり漁師がピアノ/演奏家になるまで －

5月29日(金)14時から、現在、テレビや講演会に引っ張りだこでいらっしゃる徳永 義昭様と奥様をお迎えしてのキャリア教育講演会を開催しました。たくさんの保護者様や地域の方々にもお出いただき、得意とされていらっしゃるマジックの披露と「ラ・カンパネラ」を弾かれるまでの経緯をユーモアを交えながらお話しされました。奥様とのエピソードでは「フォー・エヴァ・ラブ」、ピアニストのフジコ・ヘミングさんに認められた「ラ・カンパネラ」、サクソでは「見上げてごらん夜の星を」「千の風になって」、バイオリンでは「情熱大陸」、トランペットでは「愛の賛歌」の生演奏を披露されました。以下は、お話をまとめたものです。

私は、高校を卒業後、のり漁師一筋で働いてきた。収穫期には海での作業と自宅での休憩を、6時間ごとに繰り返す過酷な生活を送っている。

ピアノを始めたのは52歳の時だった。2か月のパチンコで70万円も負け、手元の現金がなくなった。「ここまで落ちたか」と反省し、パチンコを辞めて時間を持てあましていた。そんなある日、たまたまテレビでフジコ・ヘミングさん(世界的に有名なピアニスト)が「ラ・カンパネラ」を演奏しているのを聴いた。演歌が好きでクラシック音楽に全く関心はなかったが、繊細な響きや柔らかい弾き方、間の取り方など全てに感動した。「この曲を弾きたい」という衝動に駆られた。早速、音楽大学卒でピアノ教室で講師をしている妻(千恵子様)のピアノを借りて練習を始めた。楽譜が読めないうえに、太い指でうまく鍵盤をたたけなかった。妻からは「絶対に無理よ!」と反対されたが反骨精神に

火が付き、ラ・カンパネラの曲に合わせて鍵盤が光る練習動画を見ながら、1音ずつ指の動かし方を覚えていった。1日7~8時間の練習を繰り返し、熱中しすぎて12時間に及ぶこともあった。冬場の収穫期にのり漁に出かけた後は、かじかんだ手を温めてピアノに向かった。仕事とピアノ練習を8時間ずつ、睡眠時間は約4時間の生活を1年間続けて、「ラ・カンパネラ」を演奏できるようになった。その後も練習を続けて、2019年にテレビ番組の企画でフジコさんの前で演奏する機会をいただいた。演奏後に、フジコさんから「ブラボー」と言っていただき、とても嬉しかった。そのことがきっかけとなって、彼女のコンサートに前座として演奏するようになり、共演も果たして現在の姿がある。

年間、演奏会に出掛けるのは4月から8月までの期間で、全国で120か所ぐらい回っている。「せっかく演奏するなら、同じ楽器で同じ曲のばかりの演奏ではなく、更新していきたい」と思い、バイオリンは1年半前から始め、「64歳からの挑戦となった」と話されました。演奏の合間に、「いくつになっても自分がやりたいと思ったことを夢にして頑張ってください。将来、好きなことはきっと見つかります。夢を叶えるためには努力は必要です。『努力は報われる』という言葉があります。努力した分、良いこともたくさんあります。ただ、自分のことを振り返って思うことは『報われるまで努力するから報われる』ことを実感しています」と熱い思いを話していただきました。

現在、3年前から撮影されていた徳永様のドキュメンタリー映画が完成し、カンヌ映画祭に出品されるまでできているようです。徳永様のマジックやお話し、演奏に前のめりになって聞き入り、たくさんのエネルギーと応援をいただいた時間でした。この様子は、イレブンテレビで放映されます。楽しみに!